

～令和 8 年度の教育目標と教育活動の重点について～

広州日本人学校 校長 大久 耕

令和 8 年度 学校経営方針

【学校経営方針(経営スローガン)】

「未来につながる持続可能な広州日本人学校の創造」

【令和 8 年度学校経営 ～「未来につながる」～】

広州日本人学校は、前身である広州補習授業校(1982年開校)から、1995(平成7)年4月に広東省教育庁より認可を受け日本人学校として開校しました。

開校時は、児童生徒数はわずかに小学部 17 名、中学部 1 名、計 18 名でしたが、中国並びに広東省域の経済発展及び日本企業の進出により、大幅に増加してきました。開校 9 年目(2003 年度)には 100 名を超え、その 3 年後(2006 年度)には、300 名を超えるまでになりました。

それ以後も児童生徒数は安定しており、2019(令和元)年度には 450 名を超えるまでになりました。

コロナ禍では一時児童生徒数は半減しましたが、2024 年度には一時 390 名を超えるまでに回復しました。しかし、一昨年度後半から、中国国内において日本人が巻き込まれる事件の発生や経済状況の変化等により、児童生徒数は減少に転じています。

これらのことから、本校は「発展」の段階から、明らかに「維持」の段階へと切り替わったと言えます。

今年度学校経営スローガンを「未来につながる持続可能な広州日本人学校の創造」といたしましたのは、現在、過去、未来全てにおいて広州で学ぶ子供たちの財産である学校を守り受け継いでいくために、広州日本人社会における状況の変化を予測し、今しなければならぬことを整理し、これからの形を作っていく必要があるとの思いによるものです。

学 校 教 育 目 標

自ら学び、個性豊かに国際社会に生きる児童・生徒の育成

目指す児童生徒像

(知)自ら考え、進んで学力の向上に取り組む子

(徳)自らちがいを認め合い、共に生きていく子

(体)自ら健康と安全に気を付け、たくましく生きていく子

学校教育目標には、「自ら学び、個性豊かに国際社会に生きる児童・生徒の育成」を掲げています。

ここに示す「個性豊かに国際社会に生きる児童・生徒」とは、文部科学省が示す「グローバル人材」^{※1}の考え方を意識しています。日本人学校を含め、日本国外で学び、育つ日本の子供たちは「グローバル人材の原石」と言われています。日本人学校に勤務する教職員には、グローバル人材として力を発揮できる児童生徒の育成が求められています。全教職員がそのことを強く意識しつつ指導に当たっていく必要があると考えています。

児童生徒を、日本人としてのアイデンティティを保ち、多様な言語、文化、宗教等の中で社会に貢献できる人材として育てていくために、義務教育段階では主体的・対話的で深い学びを通して広く思考できる力、他者(言語、文化、宗教等)と共生できる力、厳しい環境中でも心身の健康を保ち活躍できる力を付けていくことが必要です。

そのために、本校では、「自ら」という言葉をキーワードに保護者や関係機関との連携の下、児童生徒の指導を進めていきます。

- ※1 世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野に入れた社会貢献の意識などを持った人間
(文部科学省「産学官によるグローバル人材の育成のための戦略」2011年)

「五つの愛(合い)」ある教育活動

- 1 子どもと教師とのつながりを大切にする。(向き合い)
- 2 子どもと授業とのつながりを大切にする。(学び合い)
- 3 子ども同士のつながりを大切にする。(高め合い)
- 4 子どもと保護者・日本人社会とのつながりを大切にする。(付き合い)
- 5 子どもと中国とのつながりを大切にする。(関わり合い)

在外教育施設は、「海外に在留する日本人の子供のために、学校教育法に規定する学校における教育に準じた教育を実施することを主たる目的として海外に設置された教育施設」です。以下に挙げる三つの基本理念のもとに学校運営を行っています。

- 在留邦人の子の教育を受ける機会の創出と確保 (学びの保証)
- 国内の学校と同等の教育環境の確保と提供 (国内同等の環境整備)
- 多文化尊重と我が国に対する諸外国からの理解増進 (特色のある教育活動)

これらの基本理念を踏まえ、充実した教育活動を展開していくためには、「子ども」「教師」「授業」「保護者・日本人社会」「中国」がそれぞれ相互につながり合っていく必要があります。本校では、これら五つのつながりをそれぞれ「向き合い」(児童生徒と教師)、「学び合い」(対話的で深い学び)、「高め合い」(児童生徒同士)、「付き合い」(保護者・日本人社会)、「関わり合い」(中国・広州)と表現し、「五つの愛(合い)」を大切にした活動を展開していきたいと考えています。

「五つの愛(合い)」をとおして、児童生徒が広州日本人学校での学びを本校を離れた後(=未来)においても実感でき、その学びを糧にそれぞれの場所でさらに学び深め、やがては国際社会の中で活躍できる人材(グローバル人材)となることを目標としていきたいと考えています。



教育活動の重点 「五つの“愛”(合い)」を育む六つ視点

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1 確かな「学力の向上」 | 4 健康管理能力、体力の向上 |
| 2 異文化と共生できる資質や能力の育成 | 5 現地社会・保護者から「信頼される」学校 |
| 3 道德教育の充実 | 6 教育環境の整備 |

本校が広州で学んでいる子供たちが誇りに思える学校となり、未来に学ぶ子供たちの財産とするために、次の六つの視点から教育活動を進めてまいります。

1 確かな「学力の向上」

(1) 校内研修・授業研究の充実

- ・ 校内研修・授業研究等をとおして教員の資質の向上に努めます。
- ・ 授業を評価し、授業改善を進めていきます。

(2) 自己実現に向けた基礎・基本の徹底と応用力・創造力を発揮できる学力の育成

- ・ 各教科,総合的な学習の時間等を活用して言語活動を充実させます。
- ・ 本邦帰国後の教育に適応できる学力の育成を意識して授業を進めていきます。
- ・ 児童生徒の発達段階に合ったキャリア教育を推進していきます。

(3) 学力の向上に向けた工夫

- ・ 学習規律を大切に,集中して学習できる環境を整えます。
- ・ 学力検査・CRT 等の客観的データに基づいて課題を整理し,学習内容の検討,授業改善を進めます。
- ・ ICT 機器などの活用により「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学び」を推進していきます。
- ・ 日本国外での生活では,国内にくらべて日々の生活の中で日本語に触れる機会が少なくなります。日本語の理解促進により,思考力を高められるように読書活動を推進していきます。

2 異文化と共生できる資質や能力の育成

- ・ 全学年で英語・中国語の授業内容や評価方法について研修を深め,語学力の向上を図っていきます。
- ・ 地域教材・資料の活用と現地理解教育を取り入れた教育活動を実施していきます。
- ・ 現地校や異校種との交流を通じて,異文化体験の促進を図っていきます。
- ・ 日本文化の理解と発信,他者の文化的背景を尊重する機会を充実させていきます。
- ・ 各教科においても国際理解教育を推進することによって,国際社会において主体的に行動できる人材育成へとつなげていきます。

3 道德教育の充実

- ・ 命の大切さ,人権を尊重する指導の充実といじめ防止対策の徹底,教員の生徒指導力の向上を図ります。
- ・ 児童生徒会を中心とした,一体感のある学校づくりを進めていきます。
- ・ 学校だより「穂学」,学級通信,授業参観等を活用し,保護者と心の教育の大切さを共有していきます。
- ・ 小学部と中学部の合同行事,合同授業,異学年交流活動を通して,豊かな人間性を育てていきます。

4 健康管理能力,体力の向上

- ・ 積極的にスポーツに親しむ習慣,規則正しい生活習慣,好ましい食習慣の確立に向けた取り組みを進めていきます。
- ・ 授業や休み時間などの活用により,新スポーツテストでは全国平均を上回れるよう努めていきます。
- ・ 部活動・クラブ活動の活性化を図り,身体を動かすことの充実感を味わわせていきます。
- ・ 歯科指導などの健康教育,保健教育において,専門家の協力と連携を図っていきます。
- ・ 学級での指導を通して,気候や時期に合わせて健康面での自己管理できる力を培っていきます。

5 現地社会・保護者から「信頼される」学校

- ・ 「自分たちの学校」という意識を高められるように,児童生徒による主体的な活動を充実させていきます。
- ・ 関係機関と連携した避難訓練などを進め,自らの命を守る指導を充実させていきます。
- ・ 多様化する児童生徒の実態に応じた指導についての検討を進めていきます。
 - (ア) 不登校,不適應等への支援体制
 - (イ) 特別な支援を要する児童生徒への対応
 - (ウ) 個に応じた指導体制の構築 等
- ・ 学校だより「穂学」,学年・学級だより,ホームページを通じて,家庭への積極的な情報発信を行います。
- ・ 保護者アンケート等により学校運営の改善を図りながら,保護者との信頼関係を構築してまいります。

- ・ 児童生徒, 保護者, 地域関係者から信頼される行動と規範意識のある教職員であることを心がけます。
- ・ 日本企業, 広州総領事館等の協力を得ながら, 日本人社会に開かれた学校づくりと『選ばれる学校』として価値を高めていきます。

6 教育環境の整備・その他

- ・ ICT 機器の現状を確認し, 必要に応じて更新等を進めていきます。
- ・ 様々な教育活動において, ICT 環境の一層の活用を図っていきます。
- ・ 在広州日本国総領事館, 広州日本商工会等と連携を図りながら安全な教育環境の整備を進めます。
- ・ 教員相互に学び合う機会を創出するとともに, 報告, 連絡, 相談の徹底をとおして組織力を高めます。